

補足スライド

『4. 貸付資本の成立』への補足

## [4-A] 世界市場の形成

グローバル化の実現

### 1. 世界市場の形成の歴史的意義

労働のグローバルな潜在能力の実現

### 世界化としての世界市場の形成

- 社会化の完成としての世界化
  - 社会化とは？
    - 市場の原理である私的労働と私的所有とを、資本主義の枠内で、資本主義の発展のために、否定する。
  - 1. 私的労働の否定の完成  
(☞政治経済学1の課題)
  - 2. 私的所有の否定の完成  
(☞政治経済学2の課題)

### 労働のポテンシャルの実現としての世界市場

- 労働がもともと持っているグローバルな、世界的なポテンシャルは、世界市場の形成として、すなわち、社会的労働を発揮する人格たちには制御しえないような、そのような人格たちにとって疎遠であるような、物件的なシステムとして実現されるしかなかった。

### 世界史

- 前近代では、……
  - 諸民族・諸地域の歴史が基本
  - 諸民族のいろいろな歴史が戦争・交易を通じて絡みあったにすぎない。
- 現代では、……
  - 本来の“世界史”，すなわち世界で一つの歴史が形成された。
  - EUのソブリン危機が日本経済にリアルタイムで影響を及ぼす。

### 資本の文明化作用

資本自身による世界の資本主義化

参考

## 文明

⇔未開

= “社会状態”

- 動物固体とは異なる意識をもった人間個人が動物集団とは異なる制度をもった人間社会を実現している状態

↓ 具体的には

- 人間特有の意識を媒介にして、文化・法律・政治を展開している状態

- 文明化 (civilize) の結果が文明 (civilization)

参考

## 市場と文明

- 市場の発生によって文明が必然的に発生する。

∵市場社会は、人間個人と人間社会との転倒的な実現だから。

- 経済の変革が、社会的な意識を、それを通じてまた文化・法律・政治を変革する。

- 物件の交易を通じての、人格の意識の交流

参考

## 都市と農村との対立

- 市場 (いちば) および交易結節点として都市が発達する。

- その限りでは、文明化=都市形成
- 都市において、商品交換にマッチした意識および文化・法律・政治が生まれる。

- 過去 (前近代的共同体)

- 農村と都市との綱引き

- 現在 (資本主義社会)

- 農村の都市化

参考

## 商品の輸出入(1)

- もともと対外交易は、それ自身で商品生産を拡大する。

- 国外に商品を売るためにも、国外から商品を買うために、ますます国内での商品生産が必要になる。

↓ つまり

国際市場の拡大は、反作用的に、国内市場の拡大を進める。

参考

## 商品の輸出入(2)

- 利潤の最大化を求めて多数の賃金労働者を雇用する資本主義的営利企業は、規模という点でも、利潤追求という点でも、対外交易を拡大する。

- 生産物の生産 (輸出拡大)
- 生産手段の消費 (輸入拡大)

参考

## 資本の輸出

- 資本主義的営利企業は自ら世界で生産する。

- 科学技術の普及  
= 資本の生産力そのものの移転

- 賃金労働者の生成

↓ それを通じて

各国労働力市場と国際労働力市場との生成  
= 資本主義的生産関係そのものの移転

参考

### 資本の文明化作用

- 資本は世界に強制する：
  - 市場に適合する原理・意識・制度
    - 自己労働に基づく個人的な私的所有・形式的自由・形式的平等・民主制・近代法・都市など
  - 資本主義的生産の生産力
    - 企業内での計画的な、大規模な協業・分業
    - 科学技術（科学的知識の意識的・計画的適用）

参考

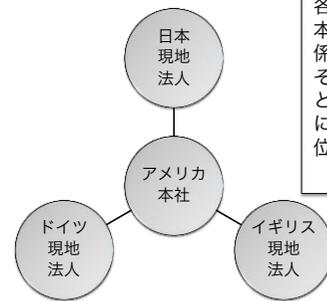
### 2. 世界市場の各構成要素

労働力・貨幣資本・現実資本

### 世界市場形成の現状

- A) 労働力
- まだ完全に世界化してはいない。
- B) 資本
1. 現実資本は世界化の完成の過程にある。
    - 超国籍企業の誕生
  2. 貨幣資本はほぼ世界化が完成している。
    - 世界中から集まり世界中に投下される投機マネー

### これまでの**多**国籍企業 *Multinationals*

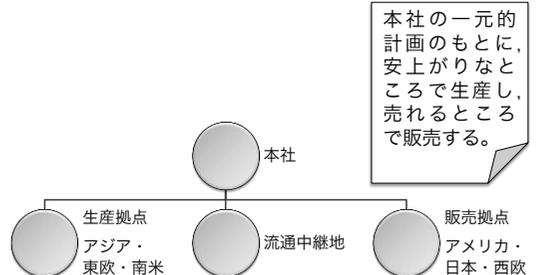


各現地法人は、本社と資本関係にあるが、その国の企業として相対的に独立した単位である。

### 日本現地法人の典型的な活動

- 日本で、
- 日本の市銀から融資を受け、
- 日本人従業員を現地採用し、
- 日本企業から生産手段を現地調達し、
- 日本の自社工場で生産し、
- 日本の消費者に販売する。
- 配当はアメリカ本社に支払う。

### 今日の**超**国籍企業＝世界企業 *Transnationals*



本社の一元的計画のもとに、安上がりなところで生産し、売れるところで販売する。

### 超国籍企業の典型的行動

- 企業内で国際的分業をする。
- できるだけ安いところで生産する。
  - 賃金が上がれば賃金が安いところに逃げ、
  - 法人税が上がれば法人税が安いところに逃げ、
  - 通貨高になれば通貨安なところに逃げる。
- はなっから世界中の消費地を相手にして、高く・多く売れるところで販売する。
  - 決して、たまたま生産地の国内の需要を越えてしまった生産物だけを海外に輸出するわけではない。

### 貨幣資本の世界化

- そもそも国内貨幣市場において貨幣はデジタルデータとして完成している。
- 法的制限さえなければ、瞬間的に世界を駆け巡る。
- どの投機マネーもより多くの利益を求めて横並びの行動をとるのだから、一国の金融政策の能力を超えた集合としての世界的な投機マネーが完成している。

### 国際的投機マネーの形成

